

教員の研究活動 2012年4月～2013年3月



大学校長

[著書]

永井良三, 田村やよひ監修(2013). 看護学大辞典第6版. メヂカルフレンド社, 東京.

田村やよひ(2013). 看護行政の仕組みと看護政策. 中西睦子, 小池智子, 松浦正子編, 看護サービス管理第4版. 119-127, 医学書院, 東京.

[講演・学会発表]

田村やよひ. 日本の看護・看護教育の展望. 三重県立看護大学開校15周年記念シンポジウム—三重の看護教育のこれまでとこれから—, 津市, 5月, 2012.

田村やよひ. 日本における高度実践看護師のグランドデザインへの作成に向けて. 日本学術振興会 次世代・最先端研究開発支援プログラム「看護卒後教育による mid-level provider 育成と医療提供イノベーション」第3回シンポジウム「日本における高度実践看護師のあり方: 臨床・教育・研究からみた諸問題の検討」, 東京, 6月, 2012.

田村やよひ. Learning from the experience of revisions to the Public Health Nurse, Midwife and Nurse Law. 国立国際医療研究センター 国際医療協力局主催 東南アジア看護助産ワークショップ, 東京, 10月, 2012.

田村やよひ. 看護の原点と看護の専門性確立に向けて. 日本産業看護学会設立総会記念講演, 東京, 12月, 2012.

田村やよひ. これからの看護: 専門職としての役割と責任. 独立行政法人国立病院機構災害医療センター附属昭和の森看護学校 卒業記念講演, 東京, 3月, 2013.

人間科学(情報学)

[著書]

柏木公一(2012). 看護の用語. 日本医療情報学会医療情報技師育成部会編, 医療情報「医学医療編」第2版. 270-275, 篠原出版新社, 東京.

[誌上発表]

柏木公一(2012). 標準化の観点から看護必要度の妥当性を考える. 看護展望, 37(3), 262-268.

柏木公一(2012). 患者アウトカムと患者特性から看護配置基準を考える. 看護展望, 37(3), 269-274.

[研究助成および研究成果報告書]

柏木公一(研究代表者)(2012). 臨床看護記録から患者アウトカム分析を行うための知識基盤データベースの開発. 平成24～26年度科学研究費補助金(基盤研究(C)).

柏木公一(分担研究者)(2012). わが国における看護支援システムの評価に関する研究(研究代表者: 黒田裕子). 平成23～26年度科学研究費補助金(基盤研究(B)).

[講演・学会発表]

柏木公一. 看護現場と医療情報システム. 第51回日本生体医工学会大会, 福岡, 5月, 2012.

柏木公一. 今, 看護現場に潜在する危機を考える 看護情報システムに潜在するリスク. 第13回日本医療情報学会看護学術大会, 東京, 8月, 2012.

柏木公一. 情報システム導入・更新と業務プロセスの深くて悩ましい関係について. 第13回日本医療情報学会看護学術大会, 東京, 8月, 2012.

中西寛子, 樋口由布子, 三原由記子, 久保慎一郎, 内山真木子, 横田慎一郎, 塚原宣子, 谷文恵, 中元雅江, 香西ひろみ, 小野律子, 遠藤紀子, 柏木公一. 看護支援システムを使用する多施設の看護計画分類—ドナベディアン・モデルの活用—. 第13回日本医療情報学会看護学術大会, 東京, 8月, 2012.

中元雅江, 久保慎一郎, 中西寛子, 鎌田智恵子, 樋口由布子, 香西ひろみ, 小野律子, 遠藤紀子, 柏木公一. システムを共通理解するための取り組み—画面名称・機能の名称の統一—. 第13回日本医療情報学会看護学術大会, 東京, 8月, 2012.

柏木公一. 電子カルテ導入による看護実践の質への影響とその要因—看護情報システム担当者へのインタビューを通して—. 第16回日本看護管理学会年次大会, 札幌, 8月, 2012.

- 柏木公一. システムベンダーと語る看護過程・看護計画. 第32回医療情報学連合大会, 新潟, 11月, 2012.
- Kashiwagi, K., Seto, R., Yokota, S., Nakamoto, M., Kozai, H., Ono, R., et al. Infrastructure development for sharing nurse informatician knowledge and skills. *Nursing Informatics 2012*, Montreal, Canada, June, 2012.
- Ito, M., Yamase, J., Tatsuno, K., Kashiwagi, K., Oda, M., & Kimura, Y. How nursing support system in Japanese electronic health record to make a nurse think easier would be. *NANDA-I 2012 Biennial Conference*, Huston, USA, May, 2012.

人間科学(語学)

[論文]

Matsuoka, R. (2012). Willingness to communicate: the effect of conference participation on students' L2 apprehension. *The Asian Conference on Language Learning 2012 Official Conference Proceedings*, 153-164.

[研究助成および研究成果報告書]

松岡里枝子(研究代表者), 松本佳穂子(研究分担者), Poole Gregory(研究分担者), Johnson Michael(連携研究者), 堤理英(連携研究者)(2012). 英語コミュニケーション意欲向上にむけて意欲阻止を導く要因分析. 平成24~26年度科学研究費補助金(基盤研究(C)).

[講演・学会発表]

- Matsuoka, R. Linguistic relativity and universality of zero-pronouns in *rakugo* translation. 湘南英文学会春季総会, 藤沢市, 3月, 2013.
- Matsuoka, R., & Poole, G. The effect of conference participation on nursing students' L2 apprehension. 日本ヘルスコミュニケーション学会, 藤沢市, 9月, 2012.
- Matsumoto, K., Matsuoka, R., & Poole, G. Impeding factors in Japanese communication behaviors in English: developing an effective questionnaire. The 9th CamTESOL Conference, Phnom Penh, Cambodia, February, 2013.
- Evans, D., & Matsuoka, R. Effects of in-class extensive reading: exploring the optimal pedagogy. The 9th CamTESOL Conference, Phnom Penh, Cambodia, February, 2013.
- Evans, D., & Herbert, J. Oral testing in the English language classroom: why and how. The 33rd ThaiTESOL International Conference, Khon Kaen, Thailand, January, 2013.
- Evans, D., & Koprowski, M. Innovative ways for testing spoken language. ETJ Expo and JALT, Tokyo, December, 2012.
- Matsuoka, R., Matsumoto, K., Tsutsumi, R., Poole, G., & Johnson, M., Investigating the underlying factors that impede "good" English learners from communicating in English. IALIC [International Association of Language and Intercultural Communication] International Conference, Durham, UK, December, 2012.
- Matsuoka, R. Examining the optimal employment of digital pedagogy in the Japanese English education from socio-psychological perspectives. AsiaCALL International Conference, Ho Chi Minh City, Vietnam, November, 2012.
- Matsuoka, R., & Smith, I. Linguistic relativity and universality of zero-pronouns in *rakugo* translation. International Conference of Communication of Certainty and Uncertainty, Macerata, Italy, October, 2012.
- Matsuoka, R., Smith, I., & Tsutsumi, R. Effective SLA using CALL program with TLT software. AsiaTEFL International Conference, Delhi, India, October, 2012.
- Matsuoka, R. Examining cognitive process of translation using models by comparing three different translations. JAIT [Japanese Association of Interpreting and Translation Studies], Kyoto, September, 2012.
- Matsuoka, R., Tsutsumi, R., & Matsumoto, K. Investigating the underlying factors that impede "good" English learners from communicating in English. PAAL [Pan-pacific Association of Applied Linguistics] International conference, Beijing, China, August, 2012.
- Matsuoka, R., & Evans, D. How should an extensive reading approach be employed? PanSIG International Conference, Hiroshima, June, 2012.
- Matsuoka, R. Willingness to communicate: the effect of conference participation on students' L2 apprehension. *The Asian Conference on Language Learning 2012*, Osaka, April, 2012.

人間科学(応用倫理学)

[論文]

- 五條しおり(2012). ポスト産業社会の人間関係—自我同一性確立の問題をめぐって—. お茶の水女子大学哲学会哲学倫理学研究会 倫理学研究, 5, 34-43.
- 佐藤安代, 五條しおり(2012). 日本の生殖補助医療に関するガイドラインの比較. お茶の水女子大学哲学会哲学倫理学研究会 倫理学研究, 5, 44-53.

[講演・学会発表]

- 原元彦, 小牧宏一, 高橋邦泰, 室橋郁生, 藤井千代, 五條しおり, 他. 小鹿野町における地域在住高齢者の健康調査研究: 経時的追跡研究. 第14回埼玉県健康福祉研究発表会, 埼玉, 2月, 2013.
- 五條しおり. 西洋近代医療の身体観と日本人の民俗学的身体観の比較. 埼玉県立小児医療センター看護師養成講座講演, 蓮田. 9月, 2012.

基礎看護学(看護教育学)

[論文]

- Kameoka, T., Funashima, N., Gorzka, P. A., Hongo, K., Yamashita, N., Nakayama, T., et al.(2013). Role model behaviors of nursing faculty in Japan and the United States. 国立看護大学校研究紀要, 12(1), 1-7.
- 宮首由美子, 亀岡智美(2013). 認定看護師の併任状況と役割ストレスとの関係. 国立看護大学校研究紀要, 12(1), 8-16.
- 亀岡智美, 舟島なをみ, 野本百合子, 中山登志子(2012). 「研究成果活用力自己評価尺度-臨床看護師用-」の開発. 日本看護科学会誌, 32(4), 12-21.

[著書]

- 舟島なをみ (監修), 岩波浩美, 亀岡智美, 定廣和香子, 鈴木美和, 永野光子, 他著(2013). 看護学教育における授業展開一質の高い講義・演習・実習の実現に向けて-. 医学書院, 東京.
- 亀岡智美(2013). 看護学教育. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第6版. 376, メヂカルフレンド社, 東京.
- 亀岡智美(2013). 看護師学校養成所. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第6版. 380, メヂカルフレンド社, 東京.
- 亀岡智美(2013). 教務主任. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第6版. 511-512, メヂカルフレンド社, 東京.
- 亀岡智美(2013). 実習指導者. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第6版. 943, メヂカルフレンド社, 東京.
- 亀岡智美(2013). 専任教員. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第6版. 1317, メヂカルフレンド社, 東京.
- 宮首由美子(2013). 看護学教員. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第6版. 376, メヂカルフレンド社, 東京.
- 宮首由美子(2013). 看護系大学. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第6版. 379, メヂカルフレンド社, 東京.
- 宮首由美子(2013). 実習指導者講習会. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第6版. 943, メヂカルフレンド社, 東京.
- 宮首由美子(2013). 専門看護師教育課程. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第6版. 1322, メヂカルフレンド社, 東京.
- 宮首由美子(2013). 認定看護師教育課程. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第6版. 1684, メヂカルフレンド社, 東京.

[研究助成および研究成果報告書]

- 亀岡智美 (研究代表者), 中山登志子 (研究分担者), 舟島なをみ (連携研究者) (2012). チーム医療推進に向けた「臨床看護師のための専門性発揮状況自己評価尺度」の開発. 平成23~26年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)).
- 永野光子 (研究代表者), 亀岡智美, 舟島なをみ, 吉富美佐江 (研究分担者) (2012). 臨床看護師のための倫理的行動自己点検・評価システムの開発と普及. 平成23~27年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)).

[講演・学会発表]

- 亀岡智美. 中堅看護師からのキャリア発達とその支援. 日本看護教育学学会第22回学術集会, 千葉, 8月, 2012.
- 宮首由美子. 設置主体を同じくする8病院が共通実施する院内教育プログラムの開発-自衛隊病院に就業する看護師の教育ニーズ・学習ニーズの診断を通して-. 日本看護教育学学会第22回学術集会, 千葉, 8月, 2012.
- 宮首由美子. 自衛隊病院に就業する看護師の教育ニーズ・学習ニーズの現状. 第58回防衛衛生学会, 東京, 1月, 2013.
- Kameoka, T., Funashima, N., Nomoto, Y., & Nakayama, T. Important factors associated with the research utilization competency of nurses in Japan. 23rd International Nursing Research Congress, Sigma Theta Tau International, the Honor Society of Nursing, Brisbane, Australia, August, 2012.
- Kameoka, T., Funashima, N., Klunklin, A., Nomoto, Y., Nakayama, T., Sawasdisingha, P., et al. Comparison of role model behaviors of nursing faculty in Thailand and Japan. International Conference Interprofessional Partnership: Improvement for Global Health Outcomes, Chiang Mai, Thailand, September, 2012.
- Miyakubi, Y., & Kameoka, T. Current status of role stress among certified nurses in Japan, comparison among joint appointees, semi-joint appointees, and non-joint appointees. 23rd International Nursing Research Congress, Sigma Theta Tau International, the Honor Society of Nursing, Brisbane, Australia, August, 2012.

基礎看護学(看護管理学)

[論文]

- 小宅比佐子, 佐藤則子, 間雅子, 小田勢津子, 木村弘江, 武田淳一, 西純子, 永田郁子, 小澤三枝子(2013). 国立病院機構・国

立高度専門医療研究センターにおける退院調整に関する実態調査. 国立看護大学校研究紀要, 12(1), 17-25.

[講演・学会発表]

中村直子, 戸谷益子, 木村弘江, 森山潤, 小澤三枝子. A 病院看護師の職務満足度と疲労蓄積度. 第 16 回日本看護管理学会, 札幌, 8 月, 2012.

基礎看護学(感染看護学)

[論文]

西岡みどり(2013). 日米以外の SSI サーベイランスの現状. 日本外科感染症学会誌, 10(1), 93-97.

[著書]

切替照雄, 吉倉廣, 川名明彦, 河野文夫, 西岡みどり, 浅沼智恵編集(2012). 院内感染防止手順第 3 版. メヂカルフレンド社, 東京.

[誌上発表]

西岡みどり(2012). 疫学とサーベイランス. 感染対策 ICT ジャーナル, 7(2), 106-110.

西岡みどり(2013). 日英米における看護専門職と感染制御. Carlisle, 17(7), 1-3.

[研究助成および研究成果報告書]

西岡みどり(2012). 病院施設の規模別の感染対策の実態調査(分担研究). 新型インフルエンザ等の院内感染制御に関する研究(主任研究者: 切替照雄). 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業.

西岡みどり(2013). 病院施設の規模別の感染対策の実態調査(分担研究). 新型インフルエンザ等の院内感染制御に関する研究(主任研究者: 切替照雄). 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業, 分担研究報告書.

[講演・学会発表]

Sakurai, M., & Nishioka, M. Goods used for preventing infections at shelters following the Great East Japan Earthquake. The 11th East Asian Conference on Infection Control and Prevention(EACIC), Tokyo, Japan, November, 2012.

西岡みどり. サーベイランス①～統計学に基づくサーベイランスデータの解析～. HAICS 研究会感染管理認定看護師のためのキャリアディベロップメント講座, 東京, 9 月, 2012.

西岡みどり. 教育講演 18 疫学とサーベイランス. 第 28 回日本環境感染学会総会, 横浜, 3 月, 2013.

成人看護学

[論文]

藤澤雄太, 外崎明子, 関奈緒子, 長岡波子(2013). 国立がん研究センター中央病院における看護実践能力の向上をめざした看護学統合実習の展開. 国立看護大学校研究紀要, 12(1), 26-33.

[著書]

Linda, H. E., Janelle, M. T., & Margaret, Irwin(2009)/飯野京子(2013). 第 6 章化学療法に伴う悪心・嘔吐. 鈴木志津江, 小松浩子監訳. がん看護 PEP リソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス第 1 版. 64-84, 医学書院, 東京.

Linda, H. E., Janelle, M. T., & Margaret, Irwin(2009)/飯野京子(2013). 第 13 章粘膜炎. 鈴木志津江, 小松浩子監訳. がん看護 PEP リソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス第 1 版. 198-221, 医学書院, 東京.

飯野京子(2013). 放射線療法における看護. 小松浩子編, 系統看護学講座別巻, がん看護学. 204-218, 医学書院, 東京.

飯野京子, 曾我千春, 阿南節子(2012). CQ20-35. 日本乳癌学会編, 患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2012 年版. 56-93, 金原出版, 東京.

[研究助成および研究成果報告書]

外崎明子(研究代表者)(2012). がんサバイバーの身体活力回復プログラムの構築と評価研究. 平成 20～24 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)), 研究報告書.

外崎明子(研究代表者)(2012). 乳がん化学療法を受ける患者のバイオマーカーを指標とした運動の効果検証. 平成 22～24 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究), 研究報告書.

外崎明子(研究代表者)(2012). 乳がん化学療法中の患者の日常生活活動量と治療後健康度に及ぼす影響の検討. 平成 24 年度政策医療振興財団研究助成, 研究報告書.

小松浩子(研究代表者), 飯野京子, 小山友里江, 綿貫成明, 栗原美穂, 市川智里, 他(2012). QOL の向上をめざしたがん治療法の開発研究: 上部消化器術後障害をもつがん患者の活力と QOL 向上をめざすリハビリテーション開発. 厚生労働科学研究費, 第 3 次対がん総合戦略研究事業「QOL の向上をめざしたがん治療法の開発研究」平成 23 年度 総括・分担研究報告書.

森文子（主任研究者），栗原美穂，小山友里江，荒井保明，福田治彦，山本精一郎，他(2012). がん患者の QOL 向上に資する科学的エビデンス創出のための看護研究の方法論の確立に関する研究. 平成 24 年度がん研究開発費年次報告書.

[講演・学会発表]

Iino, K., Koyama, Y., Watanuki, S., Kurihara, M., Yagasaki, K., Komatsu, H., et al. The incidence of symptoms 3 to 6 months after esophagectomy: prospective observation study in Japan. The 17th International Conference on Cancer Nursing, Prague, Czech Republic, September, 2012.

Tonosaki, A., & Ishikawa, M. Sedentary lifestyle and physical activity in patients receiving adjuvant chemotherapy. Primary Therapy of Early Breast Cancer 13th International Conference, St. Gallen, Switzerland, March, 2013.

飯野京子. Meet The professor/ 看護実践に活かす治療計画の読み方. 第 10 回日本臨床腫瘍学会学術集会, 大阪, 7 月, 2012.

飯野京子. 終末期の輸液について考える. ホスピスケア研究会, 東京, 6 月, 2012.

飯野京子, 栗原陽子. がん化学療法看護認定看護師教育における能力向上の試み. 第 10 回国立病院看護研究学会学術集会, 名古屋, 12 月, 2012.

藤田宏美, 石井智香子, 水野正之, 遠藤晶子. 成人期 2 型糖尿病患者の自己管理行動に関連する要因. 第 32 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 11 月, 2012.

不破理映, 遠藤晶子, 飯野京子, 石井智香子. ペグインターフェロンとリバビリン併用療法を受ける C 型慢性肝炎患者の治療継続プロセス. 第 32 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 11 月, 2012.

藤澤雄太, 村田翔, 太田葵和子, 木村由佳莉, 三瓶泰可. ダンスゲームの実施がプレイヤーの感情および運動の自信に与える影響. 日本デジタルゲーム学会 2012 年次大会, 福岡, 3 月, 2013.

井原亜沙子, 中田博, 趙斌, 五十嵐昌子, 酒井郁吉子, 不破理映, 他. 医療チームによるサポートシステムの構築に向けて カペシタピン療法を受ける患者への電話・面談サポート. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会, 兵庫, 6 月, 2012.

成育看護学(小児看護学)

[著書]

遠藤数江(2012). 基本的技術 1 バイタルサイン測定. 伊藤龍子編, カラー写真で学ぶ子どもの看護技術. 1-7, 医歯薬出版株式会社, 東京.

遠藤数江(2012). 基本的技術 3 経口与薬(水薬, 散剤と服薬補助ゼリー). 伊藤龍子編, カラー写真で学ぶ子どもの看護技術. 14-17, 医歯薬出版株式会社, 東京.

遠藤数江(2012). 基本的技術 6 おむつ交換. 伊藤龍子編, カラー写真で学ぶ子どもの看護技術. 25-28, 医歯薬出版株式会社, 東京.

[講演・学会発表]

石井由美子, 来生奈巳子, 習田由美子, 萩原綾子, 平原真紀, 日沼千尋(2012). テーマセッション 24 年度診療報酬改定の詳細—小児看護の現場の声は反映されたか—. 第 22 回日本小児看護学会学術集会, 岩手, 7 月, 2012.

成育看護学(母性看護学)

[著書]

中田かおり(2013). 5 章 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と援助 A 思春期女性への援助. 堀内成子編, 助産学講座 5 助産診断・技術学 I 第 5 版. 186-216, 医学書院, 東京.

[誌上発表]

中田かおり(2012). 妊婦の「水と健康」に関する研究 (平成 23 年度公益財団法人聖ルカ・ライフサイエンス研究所研究助成金研究報告). 公益財団法人 聖ルカ・ライフサイエンス研究所年報 2011 平成 23 年 4 月～24 年 3 月, 93-97.

[研究助成および研究成果報告書]

中田かおり(2012). 妊婦の安全なくらしにつながる「水と健康」に関する基礎研究. 平成 23～25 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)).

[講演・学会発表]

楠見ひとみ, 佐々木和子. 産後 1 ヶ月の母親の育児不安に関する研究—精神健康状態に焦点をあてて—. 第 26 回日本助産学会学術集会, 札幌, 5 月, 2012.

岩田裕美, 森岡由起子. 妊娠後期と産後 3 ヶ月時の母親の情緒応答性と母子相互作用についての検討—乳幼児表情写真 (日本版 IFEEL Pictures) と行動観察を用いて. 第 6 回乳幼児保健学会学術集会, 東京, 9 月, 2012.

中田かおり. 生体インピーダンス値と妊娠・分娩経過との関連: 妊婦の体水分評価の視点から. 第 53 回日本母性衛生学会学術集

会, 福岡, 11月, 2012.

精神看護学

[論文]

Amagai, M., Suzuki, M., Shibata F., & Tsai, J. (2012). Development of an instrument to measure self-efficacy for social participation of people with mental illness. *Archives of Psychiatric Nursing*, 26(3), 240-248.

[著書]

天谷真奈美(2012). 医療保険制度の仕組み. 野中猛監修, 植田俊幸, 佐々木明子編, 精神保健制度ガイド第3版. 26-27, 中山書店, 東京.

天谷真奈美(2012). 訪問看護. 野中猛監修, 植田俊幸, 佐々木明子編, 精神保健制度ガイド第3版. 56-57, 中山書店, 東京.

天谷真奈美(2012). 在宅サービス. 野中猛監修, 植田俊幸, 佐々木明子編, 精神保健制度ガイド第3版. 78-79, 中山書店, 東京.

[研究助成および研究成果報告書]

天谷真奈美 (研究代表者), 廣島麻揚, 小林悟子(2012). 精神障害者の社会参加効力感とその関連因子の国際比較. 平成 22~24年度科学研究費補助金 (基盤研究(B)), 研究成果報告書.

[講演・学会発表]

Amagai, M., Li, C., Kobayashi, N., & Hiroshima, M. The relationships between the sense of coherence and social participation among people with mental disabilities in Japan and China. 12th International Congress of Behavioral Medicine, Budapest, Hungary, August, 2012.

Hiroshima, M., Amagai, M., Hiroshima, M., Kobayashi, N., & Sakuraba, S. Relationship between social support and sense of coherence of people with psychiatric disabilities. 12th International Congress of Behavioral Medicine, Budapest, Hungary, August, 2012.

Li, C., Amagai, M., Kobayashi, N., Hiroshima, M., & Kondo, H. Factors related to self-efficacy for social participation of people with mental illness in China. The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS), Bangkok, Thailand, February, 2013.

高橋万紀子, 新田真由美, 天谷真奈美. A 町におけるゲートキーパー養成の取り組み. 第 71 回公衆衛生学会総会, 山口市, 10月, 2012.

井田佳緒里, 森園篤美, 落合治, 小林悟子. 身体拘束一時解除の査定基準作成に向けての実態調査. 国立病院看護研究学会学術集会, 愛知, 12月, 2012.

森園篤美, 井田佳緒里, 落合治, 小林悟子. 精神科看護師の陰性感情への対応に関する文献検討. 国立病院看護研究学会学術集会, 愛知, 12月, 2012.

上野里絵, 上別府圭子. 重症の精神疾患を有する母親の母親役割の認識の特徴. 日本家族看護学会第 19 回学術集会, 東京, 9月, 2012.

老年・在宅看護学(老年看護学)

[誌上发表]

綿貫成明, 清水真由美, 飯野京子, 宮首由美子, 須藤恭子, 能見清子, 池田菜奈(2013). パングラデシュ人民共和国グラミンカレドニア看護大学教員招聘研修 (平成 23 年度 国立看護大学校 広報・国際交流委員会活動報告). 国立看護大学校研究紀要, 12(1), 34-41.

[講演・学会発表]

Ichikawa, C., Kurihara, M., Iino, K., Koyama, Y., Watanuki, S., Komatsu, H. et al. Body weight and activity level after esophagectomy: Prospective observation study in Japan. The 17th International Conference on Cancer Nursing, Prague, Czech Republic, September, 2012.

飯村真代, 隅田仁美, 林稚佳子, 綿貫成明, 守田恵理子, 小熊亜希子, 他. 政策医療における長寿看護学実習の展開-在宅医療支援および認知症の高齢者に関わる看護についての学び. 第 10 回国立病院看護研究学会学術集会, 名古屋, 12月, 2012.

栗原美穂, 市川智里, 飯野京子, 綿貫成明, 小山友里江, 小松浩子, 他. 胸部食道がん術後患者の回復を促進する効果的な教育プログラムの開発. 第 27 回日本がん看護学会学術集会, 金沢, 2月, 2013.

老年・在宅看護学(在宅看護学)

[論文]

酒井綾子, 水野正之, 濱本洋子, 佐藤鈴子(2012). 前立腺がん患者の性に関する看護援助の実態と看護援助経験をもつ看護師の認識. 日本看護研究学会雑誌, 35(4), 57-64.

山手美和(2012). 乳がん患者が捉えた治療を継続していく力につながる家族のサポート. 死の臨床, 35(1), 113-117.

[誌上発表]

河面郁子, 山手美和(2012). 第 37 回 ONS (米国がん看護学会) 年次総会報告. プロフェッショナルがんナーシング, 2(5), 3-8.

[研究助成および研究成果報告書]

山手美和 (研究代表者) (2012). 乳がん患者が乳がんと共に生きる力を高める看護介入方法の開発. 平成 23~24 年度科学研究費補助金 (研究活動スタート支援).

山手美和 (研究代表者) (2013). 乳がん患者・家族の乳がんと共に生きる力を高める“患者・家族中心ケアモデル”の開発. 安田記念医学財団研究助成金平成 23 年度癌看護研究助成報告書.

[講演・学会発表]

Yamate, M. The meaning of “being a mother” as a motivation for breast cancer patients to continue treatment. The 17th International Conference on Cancer Nursing, Prague, Czech Republic, September, 2012.

山手美和. 在宅において終末期がん患者を介護する家族への支援—家族の体験をアセスメントし支援していく方法とは—. 第 15 回国際福祉健康産業展「ウェルフェア 2012」ウェルフェア健康大学, 名古屋, 5 月, 2012.

山手美和. 乳がん患者が捉えた“母親が乳がんになったこと”における子どもの体験. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会, 神戸, 6 月, 2012.

山手美和. 乳がん患者が捉える治療を継続していくための家族からのサポート. 第 38 回日本看護研究学会学術集会, 沖縄, 7 月, 2012.

山手美和. 在宅で終末期がん患者と生活する主たる家族介護者の介護していく力. 第 17 回聖路加看護学会学術集会, 東京, 9 月, 2012.

小口せりか, 佐川美枝子. 在宅で胃ろう・経鼻経管栄養法を必要とする患者の家族介護者が求める退院指導. 第 10 回国立病院看護研究学会学術集会, 名古屋, 12 月, 2012.

佐川美枝子, 佐藤鈴子. 国立看護大学校における在宅看護学実習の現状と課題. 第 10 回国立病院看護研究学会学術集会, 名古屋, 12 月, 2012.

国際看護学

[論文]

Higuchi, M. (2012). Anthropological perspectives on intimate violence and women's health in Japan. *International Council on Women's Health Issues, proceedings*, 249.

Higuchi, M., & Liyanage, C. (2012). Perspectives and competency of health care providers regarding the prevention of NCD in Sri Lanka. *QHR. New directions for qualitative health research, proceedings*, 50.

須藤恭子, 樋口まち子(2012). 看護基礎教育における国際看護学実習の意義-学生の意識調査から. 看護教育, 53(9), 786-791.

[著書]

樋口まち子(2013). 看護師国際移動. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第 6 版. 380, メヂカルフレンド社, 東京.

樋口まち子(2013). 国際医療保健協力. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第 6 版. 751-752, メヂカルフレンド社, 東京.

樋口まち子(2013). 国際看護協力. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第 6 版. 752, メヂカルフレンド社, 東京.

樋口まち子(2013). 参加型農村評価. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第 6 版. 847, メヂカルフレンド社, 東京.

樋口まち子(2013). 障害を調整した生存年数. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第 6 版. 1032-1033, メヂカルフレンド社, 東京.

樋口まち子(2013). 迅速地域評価. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第 6 版. 1150, メヂカルフレンド社, 東京.

樋口まち子(2013). 迅速評価法. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第 6 版. 1150, メヂカルフレンド社, 東京.

樋口まち子(2013). 適正技術. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第 6 版. 1528, メヂカルフレンド社, 東京.

樋口まち子(2013). ナーシング・ホームケア. 永井良三, 田村やよひ監修, 看護学大辞典第 6 版. 1613, メヂカルフレンド社, 東京.

樋口まち子(2013). 高齢者と福祉. 杉本良男, 高桑史子, 鈴木晋介編著, スリランカを知るための 58 章. 153-157, 明石書店, 東京.

樋口まち子(2013). 医療援助. 杉本良男, 高桑史子, 鈴木晋介編著, スリランカを知るための 58 章. 237-241, 明石書店, 東京.

[研究助成および研究成果報告書]

樋口まち子(2012). 途上国における生活習慣病 (糖尿病) 対策の看護の人材養成のモデル構築に関する研究 (分担研究) 平成 22~24 年度国際医療研究開発費.

[講演・学会発表]

Liyanage, C., & Higuchi, M. Community centered approach in NCD prevention in Sri Lanka: Lay perception and behavior. The 44th Asia

- Pacific Academic Consortium for Public Health Conference, Colombo, Sri Lanka, October, 2012.
- Higuchi, M., & Liyanage, C. Perception of community healthcare providers on Non-communicable Disease prevention in Sri Lanka. The 44th Asia Pacific Academic Consortium for Public Health Conference, Colombo, Sri Lanka, October, 2012.
- Higuchi, M., & Liyanage C. Perspectives and competency of health care providers regarding the prevention of NCD in Sri Lanka, The 18th Annual Qualitative Health Research Conference, Montreal, Canada, October, 2012.
- Higuchi, M. Anthropological perspectives on intimate violence and women's health in Japan, The ICOWHI 19th International Congress, Bangkok, Thailand, November, 2012.
- 林友紗, 江口晶子, 三輪眞知子, 小川真由美, 須藤恭子, 金子仁子. 子ども虐待予防のためのソーシャルキャピタル創出に関する調査 虐待認識の因子. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口, 10月, 2012.
- 金子仁子, 林友紗, 標美奈子, 江口晶子, 三輪眞知子, 須藤恭子. 子ども虐待予防のためのソーシャルキャピタル創出に関する調査 地域活動との関連. 第71回日本公衆衛生学会総会, 山口, 10月, 2012.
- 須藤恭子. 国際協力機関における保健医療分野の役割と活動の実際. JICA 横浜訪問プログラムにかかる講義 (訪問団体: 北里大学看護学部), 東京, 7月, 2012.
- 須藤恭子. 国際協力活動の実際. JICA 出前講座 (依頼元: 二宮町立二宮中学校), 神奈川, 10月, 2012.